

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102848		
法人名	有限会社安寿		
事業所名	グループホーム花咲小町		
所在地	岐阜県岐阜市太郎丸諏訪174番地		
自己評価作成日	令和4年8月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102848-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和5年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム花咲小町の理念である「自然の恵みを受けてありのままに」の精神の意味とする、新鮮な空気・太陽の光・温かさ・清潔さを適度に保ち、食事を適切に管理することによりご利用者様の生きる力を引き出し、心身の活性化に繋げられること。そして、利用者様のありのままを受け入れ、最後までその人らしい人生を送ることが出来るように支援します。終末期はご家族と一緒に過せるように配慮し、安らかな死をご家族様に見守られながら迎えられるように職員一同、尊厳と誠意を持って援助させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、岐阜市の比較的北部に位置し、周辺は田畑に囲まれており、山々が見渡せる静かな場所にある。職員の勤務歴が10年を超えるメンバーもあり、法人が大切にしている理念も広く浸透している。日々の活動を写真に収め、毎月の便りには、利用者の表情や暮らしぶりを多く掲載する取り組みを継続している。ホームの菜園で収穫した野菜、家族や近隣住民からの差し入れなどを活用しながら、職員が手作りの食事を提供している。また、家庭的な雰囲気の中で「芋煮会」を行うなど、利用者が五感で季節を楽しめるよう、工夫をしながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自然の恵みを受けてありのままに」を理念に自然豊かな地域の中で利用者様のありのままの姿を受け止め、利用者様に寄り添い喜びや生きがいを感じることができるよう日々の暮らしの中で支援している。理念は玄関や廊下に掲示してある。	来訪者にもわかるよう、ホームの玄関に理念が掲げられている。タイムカード前にも理念が掲示されており、職員は日々意識することができている。また、毎年4月の職員カンファレンスにおいても確認し、共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	管理者は地元住民であり、また、利用者様の多くも地元の住民である。地域の行事には住民の一人として参加しており日常的に交流している。現在はコロナ禍で地域との交流は自粛している。	管理者は、地域の「いきいきサロン」で、相談やリハビリ体操等に関わっている。利用者は周辺を散歩する際には、住民と挨拶を交わしている。岐阜まつりでは利用者も半被を着て、花神輿と一緒に写真を撮るなど、地元の祭りを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の福祉の相談を受けたり、地域活動では認知症の予防やリハビリ体操など行っている。現在はコロナ禍の為、自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍の為、運営推進会議は書面開催とし、会議メンバーに書面にて郵送し意見を求めている。	運営推進会議は、書面開催としている。会議メンバーである市担当者や地域包括支援センター、自治会長や家族などから、意見や助言を得ている。家族からは、「コロナ禍にあっても、面会ができることがうれしい」といった声がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の内容を書面で報告し意見を求めている。運営状況や感染予防対策なども報告し助言を得ながら協力関係を築いている。	コロナ対策などについて、行政と連携を密にとっている。また、現在、様々な価格高騰を受けて、運営にも影響があり、それらを緩和できるよう補助金申請などについても、相談できる関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努め、拘束の弊害についての研修を定期的に行い理解を深めている。常に利用者の視点にたち、適切なケアを実践し安心・安全な支援に努めている。	毎月行うケースカンファレンスにおいて、様々なテーマで学習会を行っている。3か月に1度、「身体拘束委員会」を開催し、身体拘束廃止についての理解、拘束の弊害等を学んでいる。開設20年を迎えるが、現在も含めて身体拘束を行ったことはない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者の指導のもと、入浴時の身体状況や小さなケガなど見過ごすことなく、職員間の情報共有等により早期発見に努めている。		

岐阜県 グループホーム花咲小町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内の研修にて成年後見制度を学んでいる。ご家族様から相談されることもあるので資料を参考にアドバイスをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には利用者様やご家族様の不安や疑問を聞き、書面を持って説明をしている。また、ホーム内の雰囲気や職員の態度等も実際に見て頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事予定表と「花咲小町便り」を毎月送付し行事の様子や日々の暮らしがわかるよう掲載しお知らせしている。現在はオンライン面会や窓越しの面会、電話等で生活の様子を伝え意見や要望を聞いて運営に反映させている。	家族が面会に訪れた際には、職員が声をかけ、意見や要望等を聞くようにしている。毎月発行している「花咲小町便り」には、利用者の暮らしぶりや表情がわかるよう写真を多く載せている。写真の使用については、入居時に尋ね、同意を得た上で掲載している。	毎月の便りを通じて、ホームから情報発信をしているが、家族に上手く伝わっていないこともある。家族の要望、家族が知りたい事を把握し、更に理解を得られるよう、伝え方の工夫にも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は普段から職員と一緒に現場に入り、日常的に職員の意見や要望を聞き意見交換を行っている。職員の気づきや利用者様についての課題など把握し利用者本位のケアを実現できるよう情報を共有し支援できるように努めている。	管理者と職員の間では日常的にコミュニケーションが図れており、意見交換も行っている。また、年1回程度は管理者が個別面談を行い、働き方について、相談にのっている。職員間のチームワークも良好である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度の導入により、職員が向上心を持ちお互いに協力しながら働けるように努めている。また、職員のワークバランスに配慮しメンタルサポートも取り組んでいる。福利厚生も充実している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに業務の分担があり、責任ややりがいに努めている。また、資格取得や研修等は個人の経験や能力に応じ参加している。その為、日程調整をし、費用は会社が負担している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議を介して知り合った他施設の方の見学や意見交流会ができるように便宜を図り、サービスの質の向上に反映させていく取り組みをしている。現在はオンライン研修等の為、交流は自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が歩んできた人生や入居にいたるまでの環境並びに経過を知ることからはじめ、本人やご家族様の不安や要望に耳を傾け、寄り添いながら安心して、その人らしい生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの家族様の思いを受け止め、不安や要望など気兼ねなく話して頂けるよう努めている。入居初期には利用者様の様子を電話等で伝え安心して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様の実情や要望を見極め、他のサービス利用も視野に入れ必要とする支援を安心・納得した上で可能な限り希望に沿った支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のありのままを受け止め、喜びや生きがいを感じることができるよう「介護する・される」という関係ではなく「ともに学び・支え合う」という関係を築き安心した生活を送ることができるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を一番に支えるのはご家族様であるという考えのもとに、ご家族様の考えを受け止め本人とご家族様との関係を深めるように支援し、共にご本人を支えていけるよう協力しあえる関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	オンライン面会や電話、窓越しでの面会を行っている。コロナ禍であっても家族や知人との関係が途切れないように感染対策をして支援している。	面会は時間制限を設けた上で、窓越しやテラス等で行っている。面会時の飲食は禁止としているが、職員が面会時の様子を撮影し、その写真を廊下などの共用空間に掲示している。家族の要望にも応え、リモートでの面会も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や行動しやすい場所を考慮しつつ、孤独や利用者間のトラブルを防ぎ、利用者様同士が助け合い穏やかに関わりが持てるように見守り、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も時候の挨拶の言葉を送る等、関係を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の生活歴や人生経験を知り一人ひとりに寄り添い、表情やさりげない会話から思いや要望を把握するよう心がけている。困難な場合はご家族様の情報や意見も聞きながら、その人らしく暮らせるように支援方法を模索している。	アセスメントシートや「好き・嫌いシート」を利用し、本人の生活歴や嗜好などを把握している。本人のみではなく家族からも聞き取ることで情報を補完している。近隣の神社へ参拝することもあり、信教を聞き取ることもある。これらは職員間で共有されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史を作成することにより、今までの暮らしを理解し、その人らしい生活が過ごせるように常に寄り添いながら支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護記録を作成し、健康状態や行動記録を記載している。また、「本人が出来ること・出来なくなってきたこと」を継続して観ていき、職員が共有することによって適切な支援を提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が利用者の状況や課題点をまとめサービス担当者会議及びケースカンファレンスで持ち寄り職員全員で検討し共有している。また、利用者のご家族様の意見や希望を取り入れながら介護計画を立案し、必要に応じて柔軟に見直しを行っている。	ホームでは担当制をとっており、利用者ごとに主たる担当者が現状をまとめ、利用者の状態について全職員で意見をすり合わせている。毎月のケアカンファレンスで検討し、プランに繁栄させている。家族にも可能な限り来所してもらい、計画を説明し同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事や気づきを個別記録に記載しケアの実践や本人の様子の変化を職員で共有し、見直しや評価に活用している。「申し送り表」を用いて職員全員が情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様や利用者様の心身の状況やその時のニーズに合わせて臨機応変にサービス提供に取り組んでいる。病院受診や、重度化した時や終末期・看取りを医療との連携において実現している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方やボランティアの方々の協力のもと一人ひとりが社会の一員として安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように事業所全体全体で支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の説明をし本人やご家族の意向に沿って選択している。主治医の往診が2回ある。医療機関の受診は看護師が同伴し家族様と一緒に説明を受け医療情報を共有し、緊急時は医師と看護師が連携し適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は、本人・家族の希望を優先している。定期の通院には家族同行を依頼し、突発的な状態や他科への受診が必要になったときは、管理者や看護師が同行している。協力医とも連携しながら、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤しており介護職員と情報を共有し、利用者様の健康状態を常時観察し状態変化に迅速に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、看護師が必ず付き添い情報を提供している。入院中も現在の病状を病院スタッフに聞きながら病院主治医・看護師と連携し早期退院に向けて話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期についての指針を説明し本人やご家族様の意向を尊重し、状態の変化に応じ医師や関係者と話し合い最後までその人らしく穏やかに過せるよう支援している。医師・看護師・介護職員が24時間体制で連携し家族様の協力を得て看取りケアを行っている。	契約時に、看取りの準備があることを本人・家族に伝えている。実際に看取りを行うかは、家族、医師、管理者、看護師等で協議をしながら、方針を定めている。看取り時には、利用者や家族との時間を大切に、協力を得ながら、より良い支援を行なえるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルが作成しており、緊急時に適切な行動が出来るよう研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間想定を含めて火災・地震の防火訓練を通して全職員が器具の取り扱い関係機関への通報、避難誘導など確認している。運営推進会議開催時に実施し自治会長やご家族様の参加もあり協力体制は整っている。	計画的に避難訓練を実施している。今年度は、防火設備メンテナンス会社と一緒に訓練を行っている。また、近隣の薬局とも連携を図り、入居者の薬剤情報について、災害時に提供を受けられるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のご利用者様の生活歴や価値観の違いを尊重しながら寄り添い本人の気持ちを引き出すように努め、信頼関係を築いている。排泄支援や入浴時は特にプライバシーに配慮し援助している。	2つの便座があるトイレには、間をカーテンで仕切っているが、男女が同時に使用することのないよう配慮している。また、事業所の構造上、浴室が玄関に近いため、浴室入り口前にはパーテーションを設置し、玄関付近から、中が見えないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活での自己決定を優先し、言葉で表現できないご利用者様でも顔の表情・仕草・全身での反応を注意深く観察し、本人が地主体性をもって生活ができるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせ、その人らしい暮らしが送れるように可能な限り柔軟な対応し、混乱することなく安心・安全に暮らせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡の前で髪を整えたり季節に合った服装をし、おしゃれを楽しまれている。また、訪問美容師さんにより本人の好みのヘアースタイルにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した旬の野菜も活用しながら、ご利用者様の好みや嚥下機能・疾病などに合わせた食事形態で提供し、季節や行事がわかる食事を職員も一緒に食べながら会話を楽しみ雰囲気大切にしている。	週2回、職員がメニュー会議を行いながら、献立を作成している。利用者の希望を確認したり、畑で収穫した野菜や差し入れを活用しながら調理している。利用者も、干し柿作りや芋の皮むきなど、可能な範囲で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日頃から体調や体重の増減を記録し、一人ひとりの好みや食事の様子を観察し栄養の偏りや水分不足にならないように、個々に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアだけではなく、定期的な歯科メンテナンスを必要な方に行い口腔内の清潔保持が出来るように支援している。治療が必要な時は訪問歯科診療を受けることが出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの身体状況や排泄パターンを把握し個々にあった排泄方法やオムツ等を選択し必要な補助具や介助を見極めて介助を行っている。夜間のご利用者様の状態を見ながら安全面と安眠に配慮して支援している。	立位が保てない人でも、トイレでの排泄を希望する人には、可能な限り便座への移乗を介助し、支援している。昼間はリハビリパンツ、夜間はポータブルトイレなど、個々の状態に合わせて、適切な排泄用品や用具を選択しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便の有無や形態・量を確認し記録している。排泄パターンを把握し適度な運動や水分補給、便秘予防の食品等を摂取するなどして自然排便を促す工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はある程度決めてあるが、ご利用者様のその日の体調や気分に合わせて柔軟に対応している。コミュニケーションを図りながら、個々の思いに寄り添う入浴支援に努めている。	以前は週3回程度の入浴を支援していたが、感染予防対策のひとつとして、週1回に入浴回数を減らし、陰洗を毎日行いながら、清拭や着替えて清潔保持に努めている。浴室にはリフトが設置されているが、現在、利用している人はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムやその時の状況に応じ、睡眠環境を整えて安心して眠ることができるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報を確認し個別にセットしてある。薬の誤薬や飲み忘れを防ぐ為に、その都度、名前・日にちを確認している。また状態変化にも十分留意している。薬事情報は個別カルテにファイルし、いつでも確認できるようにしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものをたたむ、カーテンを開ける、新聞を折るなど、個々の能力を活かした役割を継続できるよう支援している。また、今までの趣味が継続出来、楽しみと生きがいを持って暮らせるように働きかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常は体調を考慮しながら施設周辺を散歩、近隣神社へ参拝、テラスで外気浴など行い季節を感じるようにしている。個別の外出は希望により感染対策のもと行っている。	天気の良い日は近隣を散歩したり、テラスで外気浴をするなど、気分転換を図っている。近隣の神社には初詣に出かけている。また、感染予防対策をした上で、面会に訪れた家族との散歩や外出も可能としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の能力に応じ自己管理されているかたもいる。お金の執着される方には、ご家族様の協力のもと少額を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人や家族の希望に応じ電話やオンライン面会をしている。携帯電話を持っている方もおり家族との会話を楽しんでいる。また、暑中見舞いや年賀状を職員と一緒に作成し家族に思いが届くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外の景色を眺めると季節を感じることができリビングには利用者様が作った作品が掲載されている。同フロアで食事を作る音や匂いも感じる事が出来る。五感を刺激し一人ひとりの感覚や価値観を大切に、安心してくつろげる空間を保てるよう配慮している。	共用空間には、レクリエーションで作った作品や絵、習字等が飾られている。フロアは、食事の準備をする音や匂いなどを感じられる造りになっている。面会に訪れた家族との写真も廊下に掲示されている。また、南側にはテラスがあり、暖かい日差しが印象的であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格により気に入った場所があり、会話を楽しまれる方、落ち着いて穏やかに過ごすことを好まれる方、新聞を読みたい方など、それぞれに合った空間作りを思い思いに過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の部屋がわかりやすいように工夫し、本人が安心して暮らせるように馴染みの家具や小物、寝具を持ち込んでいる。思い出の写真、散歩の途中に見つけた野の花など飾ったりして居心地よく過ごしています。また、ご主人の位牌を置いている方もみえます。	居室には、それぞれの思い入れがある写真や寄せ書きの色紙等を飾っている。コロナ禍においての制限が増え、外出もままならず、利用者は居室で過ごす時間が増えたことを考慮し、各居室にテレビを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状況やを見極め、出来ることを継続して行えるように環境の整備や補助具等を取り入れ安全に暮らせるように配慮している。		